

事例番号:330206

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第六部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 38 週 6 日 胎児心拍数陣痛図で一過性頻脈、基線細変動を認める

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 5 日

5:30 前期破水のため当該分娩機関入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 39 週 5 日

5:40 頃- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動の減少、軽度遅発一過性徐脈を認める

7:17 頃- 胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数基線 110 拍/分未満の徐脈、基線細変動減少を認める

8:00 頃- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動の減少、高度徐脈を認める

8:49 胎児機能不全の診断で帝王切開により児娩出

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 5 日

(2) 出生時体重:3200g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.26、BE -5.9mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 0 点、生後 5 分 0 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)、気管挿管、胸骨圧迫、アドレナリン注射液投与

(6) 診断等:

出生当日 重症新生児仮死、低酸素性虚血性脳症

(7) 頭部画像所見:

生後 39 日 頭部 MRI で多嚢胞性脳軟化症の所見

**6) 診療体制等に関する情報**

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名、小児科医 1 名、内科医 1 名

看護スタッフ:助産師 3 名、看護師 1 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

(1) 脳性麻痺発症の原因は、一時的な胎児の脳の低酸素や虚血による中枢神経障害である。

(2) 一時的な胎児の脳の低酸素や虚血は、入院前の妊娠 38 週 6 日以降、入院となる妊娠 39 週 5 日までの間に生じた可能性がある。

(3) 一時的な胎児の脳の低酸素や虚血の原因を解明することは困難であるが、臍帯血流障害の可能性を否定できない。

**3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)**

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 39 週 5 日の前期破水による入院時の対応(内診、血液検査、分娩監視装置装着)は一般的である。

(2) 7 時 26 分に胎児心拍数陣痛図所見で胎児心拍数基線が低いと判断し医師へ報告したことは一般的である。

(3) 胎児心拍数陣痛図で 7 時 17 分頃以降に異常所見が持続していることに対して、7 時 48 分頃に帝王切開が必要と判断したことは一般的であるが、約 1 時間後に児を娩出したことは一般的ではない。

(4) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管)は概ね一般的である。
- (2) 重症新生児仮死のため、高次医療機関 NICU に搬送したことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2020」に記載されている胎児心拍数陣痛図の判読を習熟するとともに、その判読に基づいて適切な対応を行えるよう、医療チーム全員で準備することが強く勧められる。
- (2) 胎児徐脈が持続している場合など可及的すみやかな緊急帝王切開術が必要な場合に備えて、その手順についてシミュレーションを行うなど、手術決定から見娩出までの迅速化を図ることが望まれる。
- (3) NCPR(新生児蘇生法)の継続的トレーニングを行うことが望まれる。

【解説】 新生児蘇生は概ね一般的に行われていたが、胸骨圧迫や薬剤投与の時期についてはさらなる改善の余地があると考えられる。適切な新生児蘇生法を行えるよう、医療チーム全員が継続的トレーニングを行うことが望まれる。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

陣痛開始前に発症した異常が中枢神経障害を引き起こしたと推測される事例を集積し、原因や発症機序についての研究を推進することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

陣痛開始前に発症した異常が中枢神経障害を引き起こしたと推測される事例の発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。